

# あすなろ福祉社会のキーワード



RECOVERY & SUPPORT & HOPE

リカバリー&サポート&ホープ

人としての誇りと自信を回復し、  
何よりも自分の希望・要求・意思に基づいて、  
人に気兼ねすることなく、臆することなく、  
自分らしい人生を歩んでいけるよう  
私たちはサポートします。



## リカバリーを視点に置いた活動評価について どのような場所を目指しているか？

(1)「働くことを含むその人の人生」の実現を支える

→IPSモデルを取り入れた就労支援を行う

(2)それが主体的になれる機会作り

(3)チャレンジできる場所

→経験から学ぶことのできる場所作り



それぞれのリカバリーを感じられる場



# リカバリーを視点に置いた支援 実際に行っていること①

## ○IPSモデルを取り入れた就労支援○

～IPSの基本原則～

	あすなろ職員の意識度
① 症状が重いことを理由に、就労支援の対象外としない	○ 決めるのは僕たちではない！ 本人の希望や意識に沿って
② 短期間・短時間でも一般就労を目指す。	○ 本人の希望に合わせた支援を行う
③ 働きたいと本人が希望したら、迅速に就労支援サービスを提供する。施設内での訓練やアセスメントは最小限	○ 新規利用者の就労支援状況については別紙参照(P7. 8)
④ 就労支援の専門家と医療保健の専門家でチームを作る。	○ 受け入れの段階で、本人を支える関係機関と早い段階から連携する
⑤ 職探しは、本人の興味や好みに基づく。	○ HW以外の求人検索も行っている。 実習先、見学先を個々のニーズに合わせ対応。
⑥ 就職後のサポートは、継続的に行う。	◎ 支援者のタイミングではなく、本人・企業のペースを大事にしている。
⑦ 生活保護や障害年金などの経済的な相談に関するサービスを提供する	○ 前年度の反省を踏まえ、職員一人一人が意識する。年金申請等の動きを行っている。

# IPSフィデリティ結果より

## 就労支援チームのストレングス（強み・よさ）

- ・心地よい空間(お洒落)を提供している。
- ・利用者目線のサービス提供(決定事項は必ず支援者、メンバーとで共有する)
- ・密な情報共有(職員間の連絡のやりとりの工夫ができている)
- ・発信力(HPや広報誌など充実している)がある。
- ・地域との連携が密(支援機関との連絡の頻度や深さなど)に行われている。
- ・施設が多機能型である(I型・相談支援・B型など)
- ・生活支援員が位置付いている。
- ・若い就労支援員が育っている
- ・近くに魔女が住んでいる
- ・事業所の雰囲気があったかさ、居心地の良さ  
→リカバリーの理念が形になっているところが魅力的
- ・組織内の理念、情報の共有や本質的な連携がなされているところ(量も質も)  
→「就労」など直近の目標だけでなく、利用者さんの人生を見据えた支援
- スタッフ研修や会議でのフォローアップが効果を上げているのではないか？
- スタッフのみなさんがステキ！

(IPSフィデリティ調査時の調査員より)

# 就労者状況 (H29年3月末時点)

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 (4月末現在)
新規登録者			21名	1名
就労者	20名	16名	18名	1名
離職者	9名	5名	2名	0名
備考	定員:20名	定員:15名	定員:8月より10名	定員:10名

## 28年度就労者状況内訳

(開示:16名 非開示:1名 職場開拓:2名 実習しての採用:7名 トライアル雇用:4名)

→就職前の企業とのやりとりを実習、若しくは面談機会を多く持つ事で、マッチングがよかつた。

# 離職・定着支援について

## ・離職について

2名(内1名はその後再就職に至る)

→勤務継続が難しく、休職期間の検討も難しく、そのまま離職に至る。

要因:2名とも生活保護受給者で差し迫った経済的な逼迫した状況ではなかった。

「絶対働くなければ」の危機感がうすかったか?

本人も自分自身の仕事観をしっかり持つ事ができなかつたと振り返っている。

「何のために働くの?」のモチベーションが保ちにくかつた。

働く動機が見出しにくいからか…

# 定着支援について

就労者の中で、ジョブコーチ支援利用者:6名 たまりば登録者:10名を活用中

- ・医療機関:復職支援、入退院、服薬調整、  
医師の意見をうかがう(受診同行・電話など)  
雇用が決まったタイミングで受診同行を行なった  
(勤務内容環境を伝える為)
- ・関係支援機関:相談支援専門員(ケア会議などで情報共有)  
福祉事務所(生保の収入申告に関して)  
年金事務所(申請手続きと医療へのつなぎ)  
職業センター(ジョブコーチ支援)  
ハローワークへの報告など
- ・家族支援:入職前～入職時～定着時  
面談・訪問・電話でのやりとり  
ご家族の意向と企業や本人とのすり合わせを行う  
休職時、復職時の自宅での支援体制の確認

→本人が「しんどい」「困った」と言える場所や人が増えるといろんなところに頼ることが出来ている。

# H28年度 事業報告

- ①家族会の実施
- ②OB会の実施
- ③企業に向けたアプローチ
- ④職員の技術向上

## ①家族会の実施

- ・家族交流会（11月実施）予定だったができなかった  
（振り返り）就労移行のみでの家族会の必要性を把握できなかった。

## ②OB会の実施

- ・就職者の同窓会を実施した。→12月24日（土）16時～19時 参加者：9名  
自己紹介・近況報告（現在の仕事の様子）来年の抱負などを語り合う場を設けた。  
（振り返り）事前にチラシを作成し配布告知し、募集を募れた。  
みんなで働いている状況を伝え合い、交流を深める場となった。  
今後も就労者特有の悩みを共有する場は必要だと感じた。

## ③企業に向けたアプローチ

- ・障害者雇用を検討している段階の職場へ訪問し、雇用に向けての流れを職業センターのカウンセラーと一緒にサポートし雇用につながった。
- ・表町商店街を通じた行事をきっかけにつながり、就労支援前の実習や雇用の機会を検討することができた。
- ・職場開拓がきっかけで、見学・実習、雇用の相談を企業から受ける機会があり、その後も関係が継続している。

# 29年度活動方針

○就労支援の取り組みを通じて、本人、家族、企業、スタッフなど、それぞれが前向きに「働く」「暮らす」ことに向き合える機会を提供したい。

## ①就労移行支援での家族交流会の実施

目的：家族会全体会では話せない、就労に関しての家族の悩みや相談、出来事などを分かち合う場所を設け、家族にも本人の応援団になってもらいたい。

日時：9月9日（土）（みんなネットの全国大会（10月19、20日）の前）

対象：今、就職活動をしている本人を応援しているご家族のみなさん

日時	内容	スタッフ
6月17日（土）	総会	畠木・佐藤・廣戸
8月19日（土）	第53回家族交流会	
9月9日（土）	ジョブ家族交流会	スタッフ全員
10月19, 20日	みんなねっと	
11月18日（土）	第54回家族交流会	
1月20日（土）	第55回家族交流会	
2月14日（水）	第56回家族交流会	
3月17日（土）	第57回家族交流会	

※家族交流会にもジョブスタッフが持ち回りで参加し、ジョブご家族の参加の様子を知る。

## 29年度活動方針

### ②OB会・OB現役交流会の実施

目的:就労者にとっての仲間同士のつながりを感じる場、リフレッシュの場

就職を目指す人にとっては、就労者の話を見聞きし刺激をもらい、仕事探しモチベーションアップ

計画)土曜開所日を固定化し(偶数月・第4土曜日)、実施する。

第1弾として…

日時:6月24日(土) 13時～15時

場所:あすなろプログラム室

担当:佐藤、畠木

チラシ:5月中旬配布予定

・OBのみの交流会も昨年引き続き忘年会として企画する。

日時 内容 スタッフ(担当制)

6月24日(土) OB・現役交流会 次回やりたいことなど話をする

8月26日(土) OB・現役交流会

10月28日(土)

12月23日(土) OB 忘年会

2月24日(土)

# 29年度活動方針

③就労支援で活用できるツールの工夫をする。

- ・見学先・体験先リストを作る。
- ・虎の巻を作成する(よこつな会WG)
- ・市単位でのアンケートの実施(よこつな会WG)

④職員のスキルアップ

H29年度

ジョブサポートセンターあすなろ スタッフ

杉原・畠木・田中・佐藤・廣戸

今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。